

未来へつながる確かな安心をお届けします

# 肥後保険企画

2024年7月143号（毎月1回発行）

発行：肥後保険企画株式会社 監修：渡辺 時貞

〒860-0843 熊本市中央区草葉町4-20 AIG熊本ビル1F

Tel 096-342-6233 Fax 096-342-6390 URL <https://www.higohoken.co.jp>

日々の営業活動のなかで、ご縁をいただいた方々にお届けしています。

お忙しい毎日の“一息”としてお読みいただけましたら幸いです。



©2010熊本県くまモン

いつも  
ありがとうございます



こんにちは！渡辺です。いつも定期便をご覧いただきありがとうございます。

▼会社が成長するためにはPDCAを回すことは必須です。ただきちんと回し続けることは容易ではありません。

▼原因の多くは計画がきちんと実行されていないからだと思います。解決策は計画を具体的にすることで、「誰が」「何を」「いつまでに」「どのように」実行するかが決ま

つていなければ、行動には結び付きません。▼まず「誰が」ですが、関係者が複数いる場合は担当者を明確にします。「誰かやっ

て」では結局誰もやっていなかったという事態になりかねません。

▼「何を」では、やるべきことを明確に伝えます。何をやらなければならないような指示ではダメです。

▼「いつまでに」では、具体的な期限を伝えます。「なるべく早く」などのような曖昧な期限は設定していいのと同じです。

▼最後に「どうする」では、成果物をイメージ通りにするために期待されるアウトプットレベルをできる限り明確に伝えます。

先月、東京の有明セン  
トラルタワーホールで開  
催されたAIGのセミナー  
に参加してきました。

▼みっちり2日間の勉強。  
大変刺激になりました。



会場風景

## 生命保険お役立ち一口情報

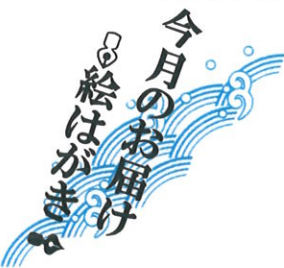
生命保険文化センターの調べによると、生命保険の加入目的は「医療費や入院のため」が第1位となっています。

また、「万一の際の家族の生活保障のため」といった加入目的も増加傾向で、逆に「葬式代や老後の生活資金」は減少傾向です。

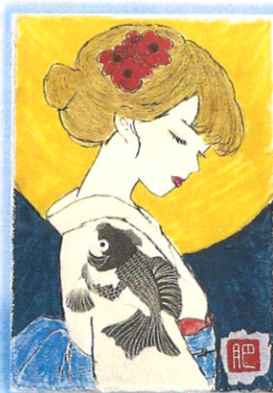
死亡時に備えて加入する生命保険ですが、家族の生活保障のためと葬式代のためとでは、加入する保険金額に大きな違いがでてきます。

ご高齢でしたら葬式代だけで充分という人もいるかもしれませんが、30代の人でしたら葬式代に加え家族の生活保障も必要になってきます。

ただ単に死亡したときのためではなく、いつまでにどのくらいの保障が必要かをおさえておかないと、 unnecessaryな保険に加入し、無駄な保険料を支払い続けることにもなりかねません。



手書きなので  
枚数に限りはありますが、  
絵はがきをお届けしています。



夏の風物詩、お祭りってワクワクしますよね。今月はちょっとレトロで懐かしい浴衣姿を描いてみました。

浴衣には幸福や豊かさを表すと言われている金魚を肩から胸の一番目立つところにあしらいました。昔懐かしい古典柄で浴衣の地色は白で涼しく、大きな月の光に包まれて優しい雰囲気 of 彼女ですが、実は今風のアッシュカラーの髪色でレトロとのギャップが楽しい制作になりました。今年の夏祭りには素敵な浴衣がおすすめです。

## がん保険は長期の通院重視 外来での治療が増えています



日本人の2人に1人はかかるがん。深刻な病気に変わりありませんが、検査や治療技術の進展で今や治る病気になりつつあります。ただ、治療が長期化すれば高額な治療費になることも珍しくありません。

備えとしてのがん保険ですが、最近増えているのは「治療給付金型」。所定の治療を受けたときに給付され、保険対象となる治療を1回でも受けると1か月単位で10万円といった給付があります。給付が1か月単位となっているのは、一般的な所得水準の人の1か月の医療費自己負担が9万円ほどが上限となる高額療養費制度を考慮しているからです。



治療給付型が増えた背景にあるのががん治療の変化です。以前は入院しての治療が主体でしたが、今では入院日数も短く通院治療が多くなり、がんの生存率が上昇する反面、再発を防ぐための治療や定期検査などは長期化傾向です。

また、がんと診断されると100万円などのまとまった金額を給付する「診断一時金型」に比べて保険料も安く、効率的にがん治療に備えることができます。

がん保険の保険料は保障の手厚さや契約時の年齢に比例します。保険料を抑えるには給付額を下げるのも選択肢になります。加入する際は家計の負担と保障内容のバランスを考えて加入したいものです。



## 肥後保険登山倶楽部

こんにちは、登山倶楽部の萩尾です。先日鹿児島と宮崎にまたがる霧島連山の一角にある高千穂峰へ登山してきました。

この辺りは神々のいわれが多く登山道も天孫降臨登山道という登山口もあります。近くには霧島神宮も鎮座しており神秘的な雰囲気漂う山域です。

さてこの高千穂峰はかの有名な坂本龍馬が登山した時にこの山頂に刺さっている天の逆鉾を引き抜いたという逸話が残っています。

天逆鉾とは、大国主神を通してニニギに譲り渡されて国家平定に役立てられ、その後、国家の安定を願う矛が二度と振るわれることのないようにとの願いをこめて高千穂峰に突き立てたという伝承があります。いろんな思いを馳せながらの登山も楽しみのひとつです。



天空の逆鉾

## 健康経営やっています



熱中症対策アドバイザー養成講座を受講&修了しました。

梅雨の晴れ間には温度も湿度もぐっと上がり、熱中症が心配される時期に入ります。適切な熱中症対策を行うための専門知識を学び、知らなかったことやあやふやだったことがクリアになり、周知・アドバイスができる有意義な内容だったと思います。

印象的だったのは、暑さ指数(WBGT)。人間の熱バランスに影響の大きい気温・湿度・輻射熱の3つを取り入れた温度の指標で、熱中症予防サイトに指数が毎日発表されています。気温が同じでも湿度などの影響で暑さ指数が高い日の方が熱中症搬送者数も多く、指数に応じて適切な対策をとることが熱中症予防につながります。暑い夏に負けないように、色々な情報をキャッチしてまいります!



修了証

## 訂正する力



に興味深いものがあります。

東京五輪や暴露系ユーチューバー、安倍元首相銃撃事件など、現代の出来事に言及しつつ、訂正と修正の厳選たる違いを協調する点は非常に興味深いものがあります。

誤りを認めて訂正すること、を、誤った側もそれを眺める側も、どこか敗北と捉える風潮があり、とかく現代社会には、訂正の利かぬ人々があふれているとしながらも、日本はかつて訂正が得意な国だったと指摘しています。

失脚のきっかけを与えまいとして頑なに謝らない政治家。謝らないことをぶれないことと勘違いして論破し喝采を受ける毒舌論客……

## 乱読コーナー

「ひとつとは違ったことを訂正しながら生きていく」。

言論界へのデビュー30周年を飾る著者で、批評家でもある東浩紀氏の集大成といえる一冊です。